

京都・長岡京跡 (2)

1 所在地 一・二 京都府向日市鶏冠井町七反田、三 上植野町車返

2 調査期間 一 一九九〇年(平2)一〇月～一九九一年一月、
二 一九九一年一月、三 一九九〇年一〇月～一九九一年三月

3 発掘機関 勝向日市埋蔵文化財センター

4 調査担当者 國下多美樹・秋山浩三

5 遺跡の種類 都城跡

6 遺跡の年代 長岡京期(七八四～七九四年)

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

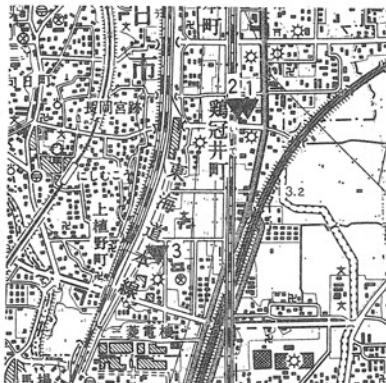
一 南一条大路・東二坊
大路交差点(左京第二五
四次調査)

二 南一条大路・左京二条二坊十六町(左京第二五九次調査)

三 左京三条一坊十三町(左京第二五七次調査)

四 南一条大路と東二坊大路の交差点中央部に位置する。南隣接地で実施

した左京第一〇〇次、第二



(京都西南部)

一八次調査では、東二坊大路両側溝、南一条大路南側溝と、二条三坊一町及び二条二坊十六町内で建物・柵列・溝などを検出している。今回の調査では、南一条大路南側溝、東二坊大路東西両側溝の各条坊側溝を検出し、道路の規模や交差点の状況を再確認することができた。

木簡は、東二坊大路西側溝SD一二八〇一から一点出土した。同溝からは、長岡京期の土器類の他、瓦・鉄釘・種子・獸骨が比較的まとまって出土した。

二 南一条大路・左京二条二坊十六町(左京第二五九次調査)

調査地は、十六町の北東隅に位置する。東隣接地で実施した左京第二一八次調査では、南一条大路南側溝から木簡一点、東二坊大路西側溝から木簡二点が出土している(『木簡研究』一一)。今回の調査は、これら周辺での成果をうけて、南一条大路南側溝及び路面、十六町内でピット群などを検出した。

木簡は南一条大路南側溝SD一二八〇二から一点出土した。同溝からは長岡京期の土器類・瓦類少量と陽物状木製品一点が出土した。

三 左京三条一坊十三町(左京第二五七次調査)

調査地は、東二坊大路と三条大路の交差点の北側の町に位置する。東隣接地で実施した左京第二次、第四次調査では、習書木簡や鮭の付札木簡、「西宮」と記された墨書土器約二〇点などが出土している。今回の調査で検出した長岡京期の遺構には、条坊関係として東一

坊大路東西両側溝、三条第一小路南側溝が、大路西側の十三町内では大路沿い築地西雨落溝一条、小路沿い築地の南雨落溝一条、築地下部施設として木樋を伴う暗渠一条、東西溝一条、大型掘立柱建物一棟などが、大路東側の三条二坊四町内では、東側溝に架かる橋一基、大路・小路沿いの柵二条の他、掘立柱建物四棟・柵三条・塵芥処理用の大型土坑三基などがある。右の成果と西隣接地の左京第二二六次調査の結果から、十三町の少なくとも北・東・西辺が築地で囲まれていたことが明らかになった。

木簡は、十三町の東辺築地北端の暗渠SD-1五七五一から断片一点が出土した。出土位置が暗渠掘形内に組まれた木樋の底板東端直下である点から、築地構築時の混入品と考えられる。同溝からは、土器小片が二、三点出土したにすぎない。なお、四町内の大型土坑SK-1五七〇四を中心に、墨書き器が三〇点余り出土したが、いずれも断片的な資料でほとんど判読できない。

8 木簡の釈文・内容

一 南一条大路・東二坊大路交差点

(1) 領為欲欲所□□□□□□



(256.5) × (48.5) × 6 081

この木簡は、東二坊大路西側溝から出土した。上端は、「領」の文字を切る二次的な切断。下端は切断。左右辺は割れ。表面は、や

や古風な書体で丁寧に一行書きするが、習書か。裏面は、表面の調整と異なり、削り痕が荒い。板材を横に使い、記号ないしは二文字程を太筆で大きく描いている。

二 南一条大路・左京二条二坊十六町

木簡は南一条大路南側溝から一点出土した。下端を折損。細片に分かれる。削り調整した表面及び損耗の甚しい裏面にも文字が見えらるが、墨が薄いため木簡の性格は不明である。法量は(48+13)×22×4.5である。他に、左辺原形の細い木片を利用して、表面に「日」字隔てて二ヵ所に横線を引く断片がある。法量は(128)×(10)×4である。裏面、右辺(割れ面)にも同位置に横線を引くが、全体に墨が薄く下方については確認できない。

三 左京三条一坊十三町

築地暗渠から出土した木簡の断片に文字の一部が残るが釈読できない。裏面焼損。法量は(73)×(17.5)×4.5である。

9 関係文献

財「向日市埋蔵文化財センター・向日市教育委員会『向日市埋蔵文化財調査報告書』三一（一九九一年）

(1・11 國下多美樹、三 秋山浩三)
(释文 清水みき)